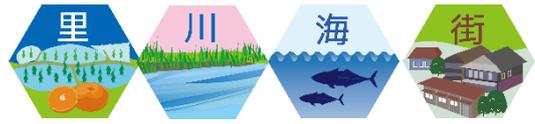


国府津地区



【地区の自然環境概要】

国府津地区は、里、川、海及び街の要素を持つ地区です。

東西ほぼ中央を流れる森戸川を境に、西側は住宅地や市街地が広がり、東側は水田や果樹園のある丘陵地が広がっています。西側は市街地や住宅地を好む動植物、東側は丘陵地等の里地里山環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。

森戸川や剣沢川沿いは、河川や河川敷などの水辺環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。

南側で約 1.5km にわたり相模湾に面する海岸は、一部、半自然の砂浜海岸が残っており、海浜を好む動植物の生育・生息の場となっています。また、広大な海は魚類等の動植物の生育・生息の場となっています。



【地区で見られる動植物】

市街地から丘陵地に変遷する里地里山環境が主に広がり、このような環境を利用する動植物の生育・生息の場となっています。また、里地里山では人間と動植物の関わり合いが重要であり、うまく共存していく必要があります。

- 「宝金剛寺」付近は二次林が広がる樹林で、ムクノキやエノキ等の植物、ニホンジカやニホンリス等の哺乳類、ヤマガウ等の鳥類、アカボシゴマダラ（外来種）等の昆虫類などが見られ、樹林環境を特徴づける種が生育・生息しています。¹
- 「曾我の梅林」は、梅林が広がる特異な環境で、クワクサやカタバミ等の植物、アズマモグラ等の哺乳類、ツグミやホオジロ等の鳥類、シュレーゲルアオガエル等の両生類、ウリハムシ等の昆虫類などが見られ、農耕地環境を特徴づける種が生育・生息しています。²アムールハリネズミ（外来種）は市内で唯一梅林で確認されています。また、梅林に特異的に出るウルハルシメジという食べられるキノコも生育しています。³
- 剣沢川下流及び海岸など水辺環境があり、イソシギ等の海岸を利用する鳥類や、カワセミヤコチドリ等の水辺環境利用する鳥類が多数確認されています。⁴

¹ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

² 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

³ 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査

⁴ 参考：平成 29 年度 小田原市自然環境等現況調査委託業務 文献調査結果

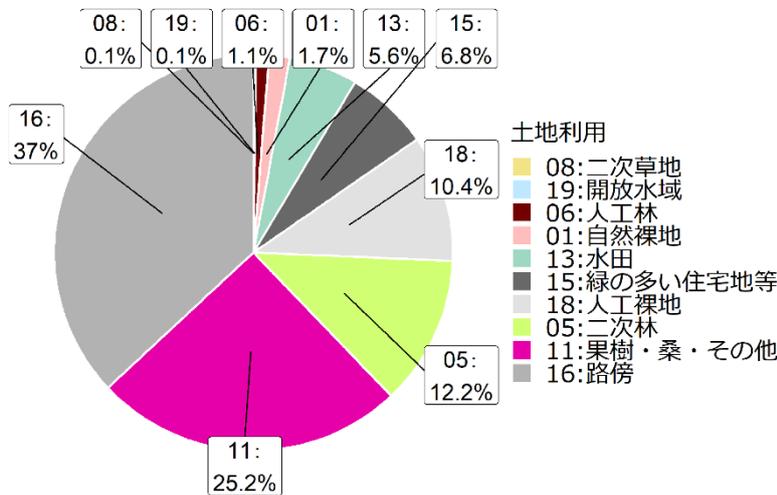


アカボシゴマダラ

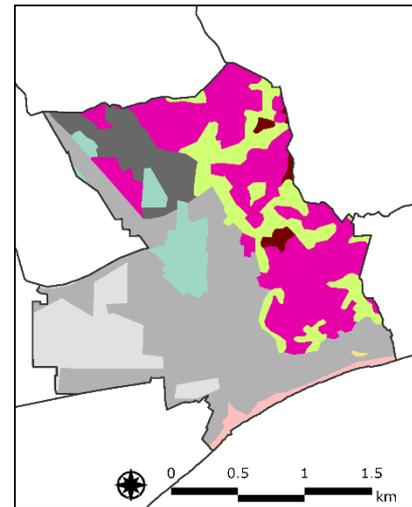


イソシギ

- 植生図をもとに作成された土地利用を見ると、中央部から西部にかけては路傍及び人工裸地が広がり、土地利用の約 5 割を占めています。中央部では水田や緑の多い住宅地等も見られます。東部は果樹園や二次林、人工林が混在しており、このような里地里山環境が約 4 割を占めています。また、南側で相模湾に面する海岸部は自然裸地が広がっています。⁵



国府津地区の土地利用割合



国府津地区の土地利用

【暮らしと自然のつながり（生態系サービス）】

自然体験・観察の場や身近にある緑、食の供給、生活環境の調整など、日々の生活の中で自然環境からの恩恵を受けています。

～文化的つながり～

- **自然体験・観察の場**：田島地区を流れる「剣沢川」沿い 700m に植えられたソメイヨシノを中心に、しだれ桜や早咲きのおかめ桜が咲き誇ります。また、地元運営委員会の主催により田島桜まつりとして「津島神社祭礼」が行われます。⁶
- **自然体験・観察の場**：南側で相模湾に面する海岸では、伊豆半島や三浦・房総半島を見渡しながら海辺の散策が楽しめる他、釣り場としても利用され、レクリエーションの場として活用されています。
- **神社・寺院**：神社や寺院が多数あります。社寺林は、生活の身近にある緑として住環境の向上や心の安らぎに寄与します。また、一般的に神社・寺院の境内は、こどもの遊び場としても役立ってきました。「菅原神社」は、

⁵ 出典：日本全国標準土地利用メッシュデータ（国立環境研究所）

⁶ 出典：2020 小田原桜まつり HP <http://www.odawara-kankou.com/sakura/index.html>

ムクノキの大木等の自然観察にも適しています。⁷

- **景観スポット**：「国府津山」からは、房総・三浦半島、伊豆大島、初島、利島、伊豆・真鶴半島が見渡せ、西に目を転ずれば箱根連山、富士山が一望できる景勝地となっています。そのため、国府津駅から曾我、大井町を通り松田町へと続くウォーキングコースは有名で、休日には市外から多くのウォーカーが訪れます。⁸

～食のつながり～

- **果樹**：果樹園が広範囲に広がり、ウメやミカン等、季節ごとの味覚を供給しています。

～生活環境とのつながり～

- **防災・減災**：国道1号沿いの海岸線の一部には松並木が残っています。海岸線沿いの松並木は、海岸沿いの街並みを作るとともに、一般的に防砂・防潮の役割を持つと言われています。
- **土壌の調整**：樹木や草などの植物には、根により土壌を保持する機能があります。土壌に含まれる栄養塩類は河川へ流入し、植物プランクトンのエネルギー源となりますが、過剰に供給されると水質悪化につながります。植物の根が保持する土壌により、河川へ流入する栄養塩類の量を調整することができます。土壌による栄養塩類（窒素）の維持量を評価⁹すると、市内で2位となります。

【地区で見られる特徴的な自然】

天然記念物や巨樹・巨木林に選定された樹木など、大切に守り残していきたい自然環境が存在しています。

- **巨樹・巨木林**：「菅原神社」「津島神社」に生育する次表の樹木は、環境省が実施する自然環境保全基礎調査の巨樹・巨木林調査¹⁰で、保全すべき巨樹・巨木林に選定されています。

巨樹・巨木林概要

所在地	樹種	樹高(m)	樹幹(cm)	調査年
菅原神社	ムクノキ	18	510	平成12年（2000年）
津島神社	ケヤキ	17	300	平成12年（2000年）
	ケヤキ	18	320	平成12年（2000年）

※出典：第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書（環境省自然環境局生物多様性センター、平成13年（2001年））

- **天然記念物**：「真楽寺」「菅原神社」の次表の樹木は、天然記念物に指定されています。

⁷ 出典：小田原の自然（小田原市教育研究所、平成9年（1997年））

⁸ 出典：地域別計画 市民の力・地域の力（小田原市、平成23年（2011年））

⁹ 出典：環境省(2016) Japan Biodiversity Outlook 2. <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/index.html>

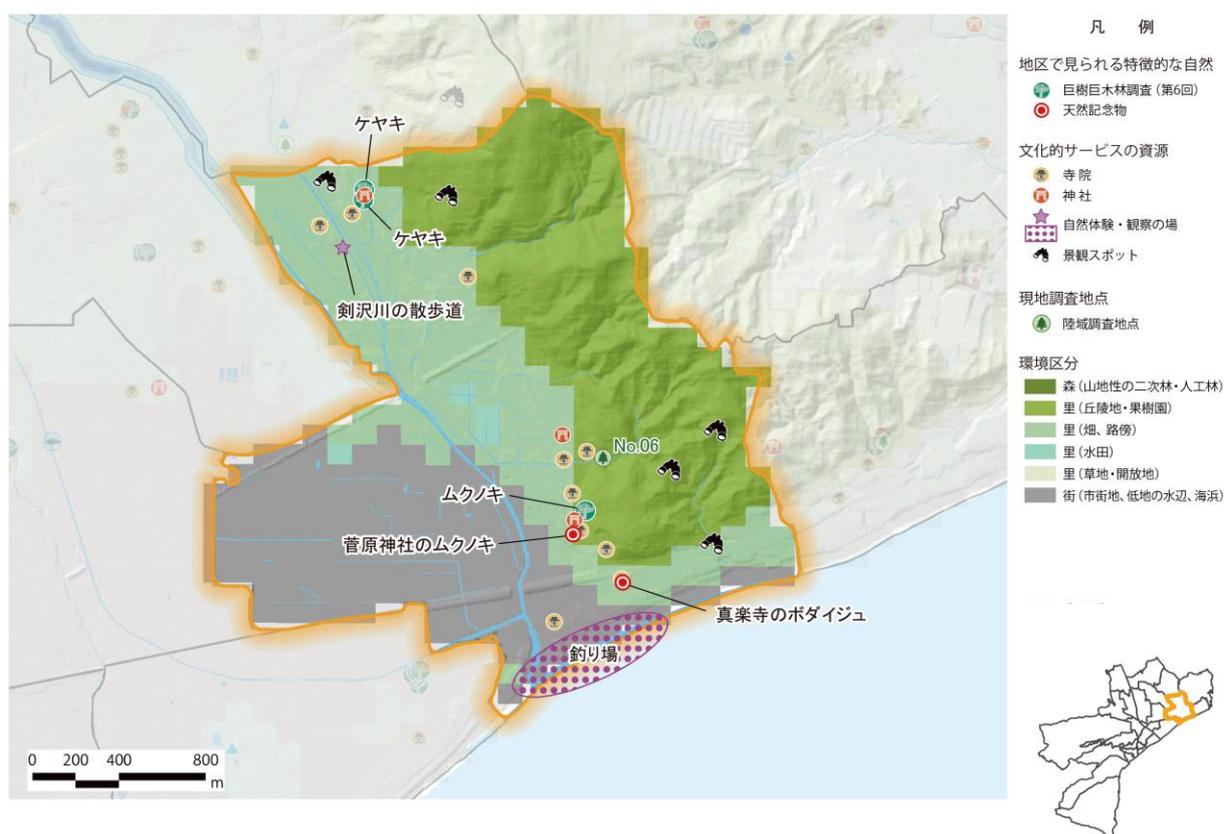
¹⁰ 巨樹・巨木林調査：巨樹・巨木林は、わが国の森林・樹木の象徴的存在であり、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなるなど、保全すべき自然として重要である、として、その全国的な実態を把握することを目的に実施されている調査

天然記念物概要

名称	指定	指定年月日	所在地	概説
真楽寺のボダイジュ	市	昭和56年（1981年） 3月30日	真楽寺	寺の本堂西側、JRの線路を背にした所に立つ古木で、周囲は一段高く石垣で囲まれている。 今から130年ほど前、真楽寺に火災があり、その時この木も損傷し、幹の部分が枯れて株だけが生き残っていたものが、その後ひこばえ（株元から生える幹）が生え、成長したものが現在の木のようで、樹齢359年位と推定できる。
菅原神社のムクノキ	市	昭和56年（1981年） 3月30日	菅原神社	「国府津の天神さん」で知られる菅原神社の境内の東側、水神さんの祠の傍らに立つ老木。 主幹の地上部から数mに及ぶ所まで空洞が目立つが、古くから村の鎮守としての「天神さん」とともに、地域の人々の長い歴史を見守りながら生き続けている老木。

※出典：小田原市 HP「天然記念物」をもとに作成 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/property/cultural/natural/>

- **重要地点**：平成 29 年（2017 年）～30 年（2018 年）に実施した自然環境調査結果の評価・分析を行ったところ、現地調査結果を踏まえ重要種が多いと評価された現地調査地点「**陸域 No.6（宝金剛寺とその周辺）**」を将来に渡り守っていくべき重要地点として選定しました。



国府津地区の自然環境マップ